



《 聖書の言葉 》 詩編 24編9・10節

城門よ、頭を上げよ  
 とこしえの門よ、身を起こせ  
 栄光に輝く王が来られる。  
 栄光に輝く王とは誰か。  
 万軍の主、主こそ栄光に輝く王。

主イエス・キリストを迎える準備は  
 わたしたちの心にできているでしょうか。

保護者の皆様には、いつも本校のカトリック教育に対しまして、ご理解・ご協力くださり、ありがとうございます。

カトリック通信「一粒の麦」を通して、本校のカトリック教育の一端をわかちあって参りたいと思います。本号では、1学期、2学期に取り組んだカトリック行事やボランティア活動の内容と生徒の感想、カトリック平和行事などをまとめております。どうぞお読みください。また、日本のカトリック学校の保護者に向けて年3回発行されている「よき家庭」を配布いたします。どうぞ合わせてお読みください。

☆カトリック教育

<p>概要 ねらい</p>	<p>本校の創立基盤であるキリスト教に触れ、神の存在を考え、「人がみな、神から愛されている存在」であることを自覚する。「神の愛」を受けて、その感謝の心を隣人に伝えられるように努力する。キリスト教の果たしてきた歴史的役割やキリスト教を基盤とした世界観にも触れる。宗教の授業や、様々な行事・活動を通じて、「感謝の心」「支え合う心」「奉仕の心」を育む。</p>
<p>日々の 活動</p>	<p>*瞑黙 …授業前後と終礼時、集合時などに行う。「平素より自制する精神力を小さなことによってよく養い、大事における自分を抑制する勇気と力を備えるため。」(かつての生徒心得より)                  *お祈り…終礼時に行う。(祈りは学年によって違うが、東日本大震災の祈りや聖ジュリーへの祈り、平和を求める祈りなど全校で同じ祈りを行う場合もある。)</p>
<p>カトリック 研究会</p>	<p>中1から高Ⅲまでの希望者が、毎週金曜日の放課後に集まり、聖書のわかちあいなどを行う。また、学園祭に参加し、学園祭ミサやクリスマスイブミサの準備や進行を行う。その他、年に数回、錬成会などを行う。</p>

## ☆ボランティア活動

ねらい	カトリック教育の一環として、本校の創立が多くの人に支えられてなされたという歴史を踏まえ、他者と共に支え合うことを目指す。
推進体制	各クラスのNDA (Notre Dame Action) 委員や係、行事やLHRを通して行っていく。
学年別活動内容	中1：太田川河川敷清掃、路上生活者への物資支援、ブラインドウォーク 高I～高III：障がい者理解学習 など (予定)

### ☆NDA委員会を通じた年間の取り組み

今年度もベルマーク・プルタブ・インクカートリッジ・ペットボトルキャップの回収、チャイルドファンドジャパン (フィリピンの里子支援)、口と足で描く芸術家協会への協力、ジンバブエ姉妹校への募金など行っています。学園祭や街頭であしなが育英募金も実施しました。

今年度もさまざまなカトリック教育活動を行っています。以下に生徒の感想も合わせて1学期、2学期の活動の一部をご紹介します。

## 1学期の活動

### ○5月 聖母マリアへの献花 (中学生)

5月は新緑が美しく、主の復活の喜びとともに、希望に満ちた月です。カトリックでは5月は「聖母月」です。救い主イエス・キリストの母であるマリア様を讃えます。今年も中1が旧聖堂、中2がノートルダムホール、中3が中学玄関の聖母像に献花をしました。各自が聖母マリアのために選んだ花を捧げ、聖母マリアを思い、「アヴェ・マリア」の祈りを唱えました。



<中2 ノートルダムホール>

ノートルダムホールの聖母像へ献花と祈り

### ○5月7日 創立者聖ジュリーの日 (全校生徒)

テーマ：「One for all ～みんなに愛を～」

創立者である聖ジュリー・ピリアート (1751～1816) は、フランス革命の動乱期を生き延びた聖人です。困難な状況のなかであっても、いつも「神さまは何と善いお方」ということばを人々に伝え、微笑みを絶やしませんでした。聖ジュリーは「微笑みの聖人」と呼ばれ、優しい微笑みの肖像画が描かれています。ミサでは、愛について書かれた「コリント信徒への手紙一」の13章が朗読されました。「愛は忍耐強い。愛は情け深い。」他者のために尽くされた聖ジュリーの生涯を思い起こす時間となりました。



### 《世界平和記念聖堂》 高Ⅲ・中1

高Ⅲと中1は世界平和記念聖堂でミサにあずかりました。

はじめての教会で中1は緊張しながら教会に入りましたが、高Ⅲのお姉さんたちと一緒に緊張がほぐれたようでした。高Ⅲが中1のときは、教会が耐震工事中で、パイプオルガンを聞くことができなかつたので、今回、パイプオルガンの演奏が聞けてよかったです。音色も美しく感動的でした。中1は高Ⅲからマリア様のカードをもらいました。



高Ⅲと世界平和記念聖堂のミサに参列して（感想）

世界平和記念聖堂（高Ⅲ・中1）

- ・初めての経験で、少し緊張しましたが、神父様、お姉さんたち、先生方とお祈りをして緊張がほぐれました。鞆町教会はとても大きく、厳かな雰囲気でした。ステンドグラスも1つ1つ色が違い、とても美しく感じました。パイプオルガンが大きく、立派なものには驚きました。オルガンの音は迫力があり、心にひびくものでした。
- ・戦後間もない広島でこのような教会をたてられたのは世界中の人々の平和を願う心のおかげだと改めて感じました。
- ・中1のときには（耐震工事のため）聞くことのできなかつたパイプオルガンを聞いて、穏やかな気持ちになった。鞆町教会と広島で活動されていた神父様と清心とのつながりについて教えていただき、広島に生まれたということ、清心で育ったということについて、改めて考えることができた。これからどう生きていくべきかを考える一日になった。
- ・聖ジュリーの精神や校訓について知っているだけでなく、その理念をどれだけ自分で実行して行くことができるかが大事と神父様がおっしゃっていたことが心に残っている。中・高の6年間で学んだことを少しでも生かせるような行動をしていきたい。

### 《校内ボランティア活動》 高Ⅱ～中2



中2～高ⅡはNDホール講堂でのミサに参列し、おしもふきを作成しました。おしもふきは、体の不自由な高齢者の方たちの下のお世話をするときに使う布です。廿日市の高齢者施設、特別養護老人ホーム「清鈴園」の職員の方たちに作り方を教えていただき、作成しました。肌にふれるものなので、やわらかな布を2枚重ねて手ぬいでつくりました。手ぬいなので手間取ったり、時間がかかったりしましたが、みんなで心を込めて、つくることができました。後日、「清鈴園」にお持ちしたところ、大変喜ばれました。

## おしもふきを作成して（感想）

- ・自分で作ったものが人の役に立つということが、とてもうれしかったので、またこのような機会があれば、ぜひしたいと思いました。
- ・縫うのはすごく大変だったけれど、がんばって作ったものが誰かの所に届くと思うと頑張れました。人のために何かをするというのは、大変だけれど幸せなことだと思いました。
- ・特別養護老人ホームにおられる高齢者の方々に気持ちよく清潔を保ってもらうために、おしもふきを手作りすることを知った。玉止めを布と布の間にすけることで肌にあたらないようにしたり、縫い目を肌に触れても痛くない大きさにしたりして、心を込めて作ることができた。
- ・一針、一針ていねいに縫うことを意識しました。ひとつひとつ手作業で行うことの大変さに気づくことができました。心をこめて何かをすることは大切だなと思いました。

## カトリック広島司教区 2022 平和行事への参加

### ○カトリック広島司教区 2022 平和行事

1981年2月23日～26日、**教皇聖ヨハネ・パウロ二世**が「平和の使者」として日本を訪問しました。特に広島では、「**過去を振り返ることは、将来に対する責任を担うことです**」と国内外に平和メッセージを発信されました。戦争を振り返り、平和を思うとき、平和は単なる願望ではなく、具体的な行動につながらなければなりません。そこで日本のカトリック教会は、その翌年（1982年）、広島や長崎を思い起こす**8月6日から15日までの10日間**を「**日本カトリック平和旬間**」と決めました。これにより、毎年カトリック広島司教区では8月5日～9日に世界平和記念聖堂で平和行事を行うことになりました。今年も平和行事が実施され、本校の生徒がボランティア活動に参加しました。詳しくは以下のURLをご覧ください。

### 《聖堂案内動画作成 ボランティア参加（高Ⅱ、高Ⅰ）》

毎年、本校の高校生が世界平和記念聖堂の案内ボランティアを行っていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、2年間聖堂案内ボランティアは行えませんでした。今年も聖堂に来られた方たちに直接案内をするボランティアはできないことになりましたが、動画を作成して紹介することになりました。2年ぶりのボランティア募集です。希望を



してくれた生徒は13名で、3つのグループに分かれ、作成していきました。動画作成は初めての生徒がほとんどで、何をどうすればいいのかわからないなかで始まり、みんなで協力しあって、スライドの構成や内容を考え、どうすればわかりやすく、印象的に正確に伝えられるのか、など試行錯誤しながら20日弱という短い期間で、動画を完成させました。作成した動画は今後も世界平和記念聖堂に来られた方たちの案内や広島教区のHPで引き続き使っていただくことになりました。カトリック広島教区のHPでご覧になれます。戦後、平和を願い世界中からの支援でつくられた世界平和記念聖堂を全世界に伝えたいという強い思いでつくられた生徒たちの動画をぜひご覧ください。

カトリック広島教区 2022 平和行事  
<http://www.hiroshima-diocese.net/page-2466/>



### 《平和のための集い 平和の誓い (高Ⅱ、高Ⅰ)》



平和公園の原爆供養塔前でプロテスタント教会の聖公会と合同で平和の集いが開かれました。3年前から毎年、広島市内のカトリック学校の高校生が平和を願い、平和の誓いをしています。今年は本校の高Ⅰ、高Ⅱの生徒3名が参加し、平和アピールをおこないました。平和の誓いの内容を考えるとき、今年はロシアによるウクライナへの侵攻がおり、平和の尊さを考えさせられる1年となったことから、平和のために行動していくことを誓いました。

### 《平和行事での販売ボランティア》

平和行事のなかでパレスチナの女性たちを支援する団体「サラーム」の商品やカンボジアからの難民受け入れ支援をする「アルペなんみんセンター」の方によるカンボジアの胡椒などの販売を手伝いました。弱い立場におかれている方たちのためにボランティア活動を行えることは貴重な機会でもありますし、またよい経験にもなります。このような活動が今後も続いていきますように。





## 2学期の活動

### ○10月31日（月） 学園慰霊祭

カトリック教会では11月は「死者の月」、11月2日は「死者の日」とされています。10月31日（月）、学園慰霊祭を行い、本校に関わられたシスター方、教職員、在校中に亡くなった生徒、保護者、同窓生の方たちのためにご冥福と感謝の祈りを捧げました。

ミサを司式していただいたアント神父様ご自身がご病気で生死をさまよわれたこととお聞きし、今、わたしたちが出会えていることは本当に「奇跡」なのだと実感いたしました。

キリスト教では、死が人生の終わりではなく、新たな人生の始まりであり、天国への旅立ちであると信じています。亡くなった方たちの安息とご遺族の方の悲しみが癒えるようお祈りいたします。慰霊祭にご参列いただけなかったご遺族の方に後日、折り鶴をそえて式の様子をご報告いたしました。



今年度はミサの前に JLMM 事務局長、「アルペなんみんセンター」地域コーディネーターの漆原比呂志先生にご講演をいただきました。講演のタイトルは「生きること、出会うこと」で、学生のころの ALS 患者の細井ご夫妻をはじめ、現在のカンボジアやウクライナの難民支援の活動を行うなかで出会った人々を通して、生きることをどのように考えられているのか、お話しいただきました。生きていくことは決して一人ではなく、いろいろな人によって支えあいながら、生かされているのだということを改めて考えることができた時間でした。



NPO 法人  
アルペなんみんセンター  
Nonprofit Organization  
Arrupe Refugee Center

JLMM <http://jlmm.net/>  
アルペなんみんセンター  
<https://arrupe-refugee.jp/>



- ・「人と出会うこと」と「自ら行動してくこと」の重要性をととも感じました。ボランティア活動において相手を助け、助けられることで「自分たちは生かしあっている」という言葉に感銘を受けました。
- ・ボランティアをする上で、「する側」と「される側」に分けるのではなく、友達になることが重要なのだとお聞きして、普段の生活でも意識してみようと思いました。
- ・誰もが必要な存在でいのちは生かしあっていくものだということが心にのこりました。
- ・「生かしあういのち」という言葉を心にとめ、ひとりではなく、みんなと協力しあって生きようと思いました。
- ・人は必ず誰かを必要とし、誰かに必要とされることが生きることだとわかりました。人に助けってもらうことは弱さだと思っていましたが、お話を聞き、大切なことだと思えるようになりました。
- ・人は自分を必要としてくれる人がいて、初めて生きていくことができ、生かしあいながら生きているということを強く感じることができました。



## 待降節 11月21日(月)～

クリスマス、キリストの降誕を迎えるための準備期間である待降節は、アドヴェントと言われ、キリストの降誕の喜びが広がっていく時期です。また、この時期は、周りの人々へ愛の行いを実践する時期でもあります。特にこの時期は欧米などのキリスト教圏の国々の若者たちはボランティア活動を熱心に行います。本校でも募金活動や物資支援活動を実施しています。

中1、中2、他学年も協力して、カトリック幟町教会の社会部で集められている生活困窮者のためのあたたかい衣料やマスク、カイロなどの支援物資を集め、教会に届けました。12月13日、観音町教会でおこなった中1の「祈りの集い」で支援物資を奉納しました。支援物資をとおして、神様の愛がさらに広がっていきますように。

### <募金活動・物資支援活動など>

#### ○11月 NDA 委員会 「口と足で描く芸術家協会」

口と足で描く芸術家協会は、口や足で描く画家たちの自立と助け合いを目指しています。病気や事故などのために両手の自由を失った画家たちの描く絵の文房具などを購入することで、その芸術活動を支援していきます。かわいい文房具や雑貨がそろっています。来年もぜひご協力ください。

○ 11月15日(火) 八幡学園のための募金活動  
12月10日(土) ジンバブエのための募金活動

今年も、児童養護施設である八幡学園の活動支援のために、また、ノートルダム修道会の姉妹校のあるジンバブエのために募金活動を行いました。八幡学園への募金活動は高校生が各クラスで行いました。ジンバブエへの募金は全校でおこないました。ジンバブエの状況は昨年以上にインフレが悪化し、物資があっても買えないという厳しい状況です。ジンバブエのこと、世界のことを知り、一方で地域の支援活動を知って、世界も地域もともに支えあっていく必要があります。

○ 12月16日(金) クリスマス行事

各学年でクリスマスにむけて準備を行いました。中1はツリーやステンドグラスで校内を飾りつけ、中2はクリスマスカードとリースを作り、お世話になった方々に贈りました。中3は、タブローを上演しました。3年ぶりで聖歌隊、楽器演奏もすべて演奏でき、学年がひとつになって作り上げ、とても素晴らしいものになりました。

高Iはクリスマスミサを担当しました。ミサ係を中心に準備をすすめ、司会や奉納をしました。高IIも研修旅行でお世話になった方たちにクリスマスカードを送りました。高IIIは、クリスマス行事の締めくくりとして毎年歌い継いできたハレルヤコーラスを3年ぶりに実際に歌うことになり、練習に励んできました。その成果もあり、本番は堂々と歌い上げました。1つの歌を学年みんなで歌えることの喜びを感じました。

中1のクリスマス飾り写真



中2作成のクリスマスリースとクリスマスカード



皆様、どうぞ心あたたまるクリスマスを迎えられますよう、  
そして戦争のない世界平和をお祈りいたします。

カトリック教育探究部 典礼係